

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670900184
法人名	有限会社 めぐみ福祉会
事業所名	グループホーム 大口めぐみの里
訪問調査日	平成 19 年 8 月 8 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670900184		
法人名	有限会社めぐみ福祉会		
事業所名	グループホーム 大口めぐみの里		
所在地	鹿児島県大口市曾木480番地 (電話) 0995-25-2323		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16-7		
訪問調査日	平成19年8月8日	評価確定日	平成19年10月16日

【情報提供票より】(19年7月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 6 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 13 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋葺き造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1000円

## (4) 利用者の概要(7月11日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松元病院 古川医院 坂口歯科医院
---------	------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年の水害で被害に遭い、利用者の方々を安全な場所に避難させたことは、職員の自信になっていると思われる。また、各ユニットに夜勤者一人ともう一人配置して、夜間の緊急時に利用者・家族・職員が安心できる体制になっている。利用者の安全を考え利用者のできることを職員がしているように思われる。個々力を活かし場面作りをして、利用者と職員と一緒に助け合って暮らすグループホーム作りに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	マニュアルを揃えることは、解決しているが、研修の継続・食事を楽しむ事の支援・市町村と関わりについては、継続されてない。改善シートで計画的に改善の継続を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で各自評価して、何回も自己評価について話し合い、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ほぼ2ヶ月に一回開催されているが、討議記録が作成されていない。事業所からの報告にとどまらず、外部評価の改善点など話し合う機会にされることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議や家族会・面会時などに、意見・要望を聞き、職員で話し合いできるだけ要望に答えられるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民会に加入しているが利用者の参加ができてない。地域の行事の情報を集め、参加可能利用者は、少人数でも参加するように期待します。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としては作られておらず、運営方針を理念として考え、サービスに取り組んでいる。		理念は、事業所の質の確保に取り組む上で根本的な考え方です。明確で地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作りあげてを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で、運営方針を唱和してしている。職員は、日々の行動・言動に意識して、サービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民会に加入している。ホームでの行事に子供会・敬老会に来てもらっている。雑巾・お手玉を地域の小学校に寄付して喜んでもらった。地域の行事には、参加していない。		地域の行事の情報を集め、参加可能な利用者は、積極的に参加することを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で取り組んでいる。昨年の外部評価の改善について、継続して取り組んでない。		改善シートを利用して、計画的に改善に取り組むことを期待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6月から2ヶ月に1回開催されている。内容は、近況報告・家族からの質問や食事を食べてもらい意見を頂いている。参加者には、資料を配布しているが、議事録がない。		議事録を作成され、話し合われた内容を職員と共有し、意見をサービスの向上に活かしていくことを期待します。また、外部評価の取り組みについても議題にあげることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向いて、市役所の担当者に、話しはよくしているが、事業所に来てもらうことはなかった。		事業所の行事の中に、市町村の担当者の参加を頂き、一緒に質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書を送るときに、請求書の下に利用者の生活状況・健康状況を個々に書いて連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会・夏祭りの折に家族会を開催している。家族の意見・要望は申し送りノートに記入して、全職員で話し合い共有している。会議録はない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職時1ヶ月は、日勤のみの勤務をしてもらい、利用者や馴染んで覚えてもらうように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の改善点だったので、できるだけ多くの研修に参加するよう心がけているが、研修記録がなく計画がない。		職員の段階に応じた計画を立て、外部研修に参加したら研修記録を作成し、内部研修で職員全員が共有できるように期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、10月に始良・伊佐グループホーム協議会を予定している。また、大口・伊佐グループホーム協議会を設立する準備をしている。		他のグループホームの見学や研修会などの積極的な取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・ショートステイを利用して、職員と馴染んでからサービスを開始するようにしている。同じ福祉会のデイサービスから引き継いで開始される方は、スムーズに開始できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に教えてもらうという気持ちで、一緒に縫い物・料理の下ごしらえをしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部屋移動をするときは、ベッドの位置・家具の位置など本人の希望にそって行っている。一人ひとりに話しかけ希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しのとき、ミーティングの中で職員の意見を聞き、意見を取り入れている。医療面でのケアについて主治医の意見がない。毎日のケアの実施記録がない。		日々の変化、問題点など毎日でも職員間で意見を出し合い介護計画に取り入れることを期待します。毎日のケアの実施記録を作り全職員のサービスの共有を望みます。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しをしている。		利用者が安定していても1ヶ月に一度は確認をされ、現状にあった介護計画であるか振り返る機会にしていくことを望みます。利用者に対応できない変化が生じた場合は、随時見直すことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医が週1回往診をしている。家族の要望に応じて病院への送迎をしている。家族と相談しながらターミナルケアをしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	宮之城・水俣など利用者の希望の病院へ通院介助している。個人の診療録を見ることで職員の共有は、図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアをしている。職員は、急変に対応できるように方針が統一されている。家族との意思確認書を作成しているが取り交わしていない。		家族との意思確認書を取り交わすことを望みます。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて、家族から意見があり勉強会をしているが、全職員の徹底まで至ってない。		勉強会を重ね全職員のプライバシーの確保の徹底に取り組むことを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添えるよう、家族と話し合い支援している。1日4回の食事を希望される方に一回量を少なくして4回食べてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備や片付けをしていない。食事をしているときに一緒に最後まで職員は付き添っていない。		利用者の力を活かしてできるだけ一緒に食事の準備をし、食事中は、職員も最後まで一緒に食事をされ、片付けも利用者と一緒にいることを望みます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回希望に添って入浴でき、毎日希望されても可能である。拒む方には、言葉賭けを工夫して進め入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車椅子体操・ゲーム・竹太鼓・歌唱などレクリエーションなどの楽しみ事の支援をしている。		一人ひとりの生活歴や力を活かし職員と一緒に掃除・食事準備など利用者の場面作りをすることを期待します。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	デイサービスのリフト付きの車を借りて、車椅子の方もドライブに行く機会を作っている。お弁当を持って花見に行っている。		1・2号棟ユニット間の敷地をお互いの交流の場にして、行き来する関係をつくり戸外で過ごす場面づくりを望みます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけてなくチャイムが鳴るようにしてある。外出傾向にある方の様子観察を徹底している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の水害の経験から地域の方々と避難訓練を計画している。年1回火災訓練をしている。地震を想定した訓練はしていない。		職員全員が、自信をもって非難誘導ができるようにホーム内で、火災・地震・水害・台風・夜間などの想定訓練を計画されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は調理師が作っている。一日のカロリー・水分量の把握ができてない。		栄養士に献立のカロリーチェックをしてもらい、栄養バランスを把握し、毎回の水分量を記録するだけでなく一日の摂取量を把握することを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕かざりを作り季節感を取り入れ、利用者にとって不快な音や光を感じられず、居心地よく過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年の水害で使い慣れたものが、水に浸かり使えなくなりベッド・タンスは新しいものが備え付けてある。徐々についで立や人形を持ち込み、利用者の個性のある部屋になり、居心地よく過ごしている。		